

9月29日の説教要旨

「遅すぎず闇から光、神の業」

春名康範牧師

聖書 ヨハネ 11:1～27

7月に旧約聖書一日一章第1巻をお買い上げ頂きましたが、誤字脱字だらけで申し訳ございません。何より、民数記10章が抜けていました。私の入院手術、妻の入院等々想定外のことが続き、原稿のチェックや印刷前の校正が何も出来なかったことが最大の原因です。この想定外のミスがみんなに参加して全国に毎朝聖書を一日一章読む運動に発展すれば素晴らしいことだと考え直しました。

エルサレムの東のオリーブ山の麓のベタニアに住んでいたラザロが病気になって死にそうになりました。マルタとマリアはヨルダン川の東側のベタニアにおられるイエス様に助けを求めて使者を送りましたがイエス様は「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。」と言われて、なお2日間そこに滞在しておられラザロは死んでしまったのです。でも、この後、イエス様はラザロを墓の中から呼び出され、死んだ者も全てが終わったのではなく神様の支配される命として復活することを示されました。

間に合わなかったと思われる時間のずれが、時間と場所と人間関係に拘束されている私達に想像を絶する恵みの展開を引き起こすことが現在にもあります。2010年7月に天満教会に招聘された時、大きな課題がありました。前任牧師が突然死なさり、会堂再建は決議したが資金が集まらず悩んでいました。前任者は現在の建物を壊すのを止めて耐震補強をするという変更案をお持ちであったと聞きました。私は、その考えに賛同して会堂を使いながら耐震補強工事をする決断をしました。神様が宝くじを当てて下さる等奇跡を期待しましたが、何も起こりませんでした。ところが、会堂改修も資金不足補充献金も終わると、2015年8月4日に国の登録有形文化財に認定されました。更に、4年後に想定外の大金が銀行に振り込まれました。隣の家を牧師館として買い取り、パイプオルガンも購入出来ました。神様は想像外の素晴らしい展開を下さいました。

神様のなさることに遅すぎることも役に立たないこともないのです。早々に与えられるよりもすごい結果に導かれる神様の働きかけが苦しみ悩む私達にも与えられているのです。今朝の聖書の箇所はラザロの物語はそういうことを言っているのではないのでしょうか。人間は死んでお終いなのではなく、死んでもその後の展開があるのです。神様のなさることに遅すぎることはない。希望を持って生きて行きましょう。